

凍害・霜害

霜ガード

10kg入り ×2袋/ケース

日中に散布するだけ！

しかも低コスト！！

果樹の蕾・花・幼果をシリカの“ふとん”で包み、
寒害・凍霜害から守ります！またサビ果の軽減に！



肥料登録番号 生第 90375号

パラフィン系資材
「グッドパートナー」の
加用をお奨めします！



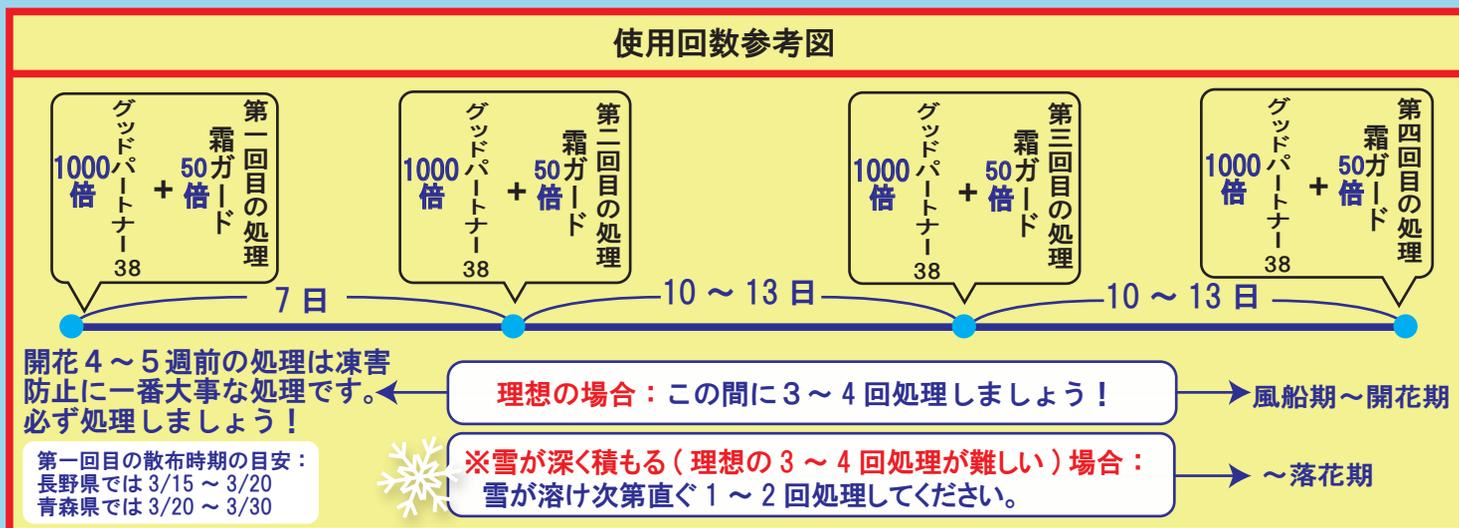
1ℓ、5ℓ

パラフィンワックス入り液肥
グッドパートナー

肥料登録番号 生第 91680号

作物	使用時期	使用倍率	成分
リンゴ、 桃、杏、梨、 サクランボ、 スモモ等の 果樹類	凍霜害防止には開花3～5 週前の凍害防止から必ず 始めて下さい。 使用回数については 下の図をご参考下さい。	霜ガード 50倍 +	
	開花期～幼果期	グッドパートナー 38 1000倍	
ブドウ など	萌芽期		

使用回数参考図



- 製造元 -



ロイヤル インダストリーズ株式会社

〒201-0003 東京都狛江市和泉本町1-15-19
TEL 03(3489)1408 FAX 03(3489)9308

- 販売店 -

お客様の声



私、大鰐孝治がお勧めする
凍霜害対策資材
『霜ガード』と『グッドパートナー38』

『ご本人紹介』(父)大鰐勝四郎氏が1984年(昭和59年)にふじの枝変わりを発見。
以後 ひろさきふじの第一人者として現在も活躍し、後進の指導等も行いながら
糖度13%以上のリンゴの生産を行う。

私の令和3年の使用事例 (弘前市鬼沢地区)

散布面積:170a~180a【品種】:つがる、ひろさきふじ、ふじ

【散布内容及び希釈倍率】	
『霜ガード』50倍+『グッドパートナー38』1000倍液を散布	
1回目	4月5日 PM3:00~ 3500L散布(注1)
	4/6 -3度、 4/11 -3度、 4/12 -4度
2回目	4月13日 AM5:30~10:00 3500L散布(注1)
	4/22 -2度、 4/23 -2.5度
3回目	4月23日 AM5:30~10:30 4000L散布(注1)
	4/27 -1.5度、 4/28 -2度(薄氷発生)

注1: 総散布面積に対する総散布量(単剤にて使用)

※今年は全3回の散布を行い、結果として中心花の被害がつがる、ひろさきふじが約2割、ふじに関しては場所に違いは有るが平均1~2割の被害に抑えられた。

数年前から霜ガード等を使用しているが、付帯効果としてサビ果の発生が抑えられる傾向があり、今年もつがるで若干のサビ果の発生で済み、ふじ系は余り目立たなかった。

以上の事が私が当資材をお勧めする理由で有り、また費用対効果の面からもりんご農家の皆様にお勧めする理由です。

● りんご、桜桃に対する「霜ガード」の効果判定試験

試験場所: 山形県農業総合研究センター(旧 山形県園芸試験場)

試験方法: プログラムフリーザーを用いた室内試験

実施時期: 平成20年4月

作物	設定温度	散布回数	被害程度別枯死率(%)		
			雌ざいのみが枯死しているもの	花芽全体が枯死しているもの	被害計
おうとう	-2℃	開花前1回	10.0±5.4	0.3±0.3	10.3±5.1
		開花前2回	0.4±0.4	0.6±0.6	1.0±1.0
		無散布	30.2±15.1	0.2±0.2	30.4±15.2
りんご	-3℃	開花前2回	45.5±13.5	3.8±2.8	49.3±13.5
		無散布	84.7±0.0	0.0±0.0	84.7±9.3

* 桜桃は、設定温度-2℃で、いずれの処理区とも低温による被害は少なく効果が認められた。

2回散布区の方が1回散布区より被害が少なく効果が勝った。

* りんごは、設定温度-3℃、2回散布で低温による被害は半減された。

結実への影響

開花期に散布した場合、花卉が褐変することがありますが、結実に影響することはありませんのでご安心ください。

使用上の注意事項

- 暖かい空気を抱かせるため、散布は午後3時頃までに終わるようにしてください。
- 農薬との混用散布可。機械油を撒く場合は先に機械油を散布してください。
- 農薬と混用する場合は混用薬剤の散布量を確認し、散布してください。
- 散布後はSSのタンク内及びストレーナーを水洗いしてください。
- 極端な低温になる場合は、燃焼法などと併用してください。
- 「石灰硫黄合剤」と混合すると、有毒ガスの硫化水素が発生する恐れがありますので、危険ですから混用しないでください。